

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調書

都道府県名	福井県	事業実施主体	福井県、池田町	地域再生計画名	「豊国の農村」をはぐくむ地域ネットワーク計画
計画期間	平成30年度～令和4年度	評価責任者	池田町総務財政課長		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価	
	指標1	指標2	基準年度	年度	中間実績	基準年度	最終実績	指標総数		達成数			
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	年間観光入込数の増加	162,460人	H28	180,000人	R2	211,924人	200,000人	R4	213,345人	○	3 2	新型コロナウイルスの影響もあったが、「ウィズコロナ」の浸透とともに県内日帰りの観光入込数や割合が増加し、最終年度の目標値を達成した。
	指標2	木材生産量の増加	10,900m ³	H28	12,000m ³	R2	6,638m ³	15,000m ³	R4	13,271m ³	×		林道利用区域内における森林経営計画の策定等は進められているが、シカによる森林被害や気候変動の影響もあり、製材に適した木材生産量が減少し、最終年度の目標値を達成できなかった。
	指標3	林業就業者数	28人	H28	29人	R2	31人	30人	R4	31人	○		順調に就業機会が拡大し、最終年度の目標値を達成した。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1	観光の促進 TPAの有料入場者数	36,734人	H28	38,000人	R2	31,135人	40,000人	R4	35,722人	×	/	コロナ前は7割を超えた県外からの有料入場者数が5割程度と落ち込み、全体の有料入場者数の減少となり、最終年度の目標値を達成できなかった。
	指標2	林業振興の推進 整備対象路線での木材生産	0m ³	H28	560m ³	R2	2,535m ³	630m ³	R4	700m ³	○		林道利用区域内での森林経営計画の策定等により、最終年度の目標値を達成した。
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
特別措置を適用して行う事業	町道整備事業（整備延長）		計画	中間年度（R2）	最終実績（R4）	計画2路線に対し、1路線は整備が完了し、危険性が解消されたが、他1路線は工事用借地について土地所有者の承諾が得られず、今後においても承諾見込みがないため事業を休止した。しかしながら、休止路線の交通量を鑑みると最終的に完了するのが望ましい。							
	林道整備事業（整備延長）		2,550m	667m	1,247m	計画2路線について、整備範囲が急峻な地形にあり搬出土量や構造物設置が多くなっているため、計画どおりの整備量に至らなかった。R5年度から認定された新規計画において引き続き町道と林道を一体的に整備する							
その他の事業	ライフ&ワーク活動拠点ワークスペース「こころぽ」整備事業		町内で起業または事業を始めようとする者の活動拠点となるワークスペースを整備する。			旧小学校分校を改修したワークスペースの提供を行っており、全6室分が満室となり、令和4年度は5,301人の利用があるなど町内事業者の活動拠点や情報交換の場として機能している。							
計画外で独自に実施した事業	移住定住促進住宅整備事業		移住定住を促進するため新たな町営住宅を整備する。			集合住宅 2棟および戸建て住宅 3棟を整備、すべて入居済み(8世帯18人)で、若者世代や子育て世代の入居により移住定住が図られている。							
	池田町住み家支援事業		移住定住希望者が周辺環境に配慮した住宅を町内に新築・増築する場合、その経費補助を行う。			R4年度までの5年間で16件の補助、そのうち、新たに10名の出生(予定含む)があったことから、人口の安定に寄与したもとなっている。							
	過疎地域自立活性化事業（木望のまちプロジェクト）		森林資源を活かした地域循環型経済の創出、若者の雇用促進、移住定住人口や都市農村交流人口の拡大を図るための交流拠点施設を整備する。			交流拠点施設(あそびハウス こどもと森:令和4年度入館者数21,063人、ウッドラボいけだ:令和4年度利用者数2,578人、池田町立クライミングウォール:令和4年度利用者数4,837人)を整備、また、既存施設(ツリービクニックアドベンチャーいけだ:令和4年度有料入込客数35,722人)の拡張整備を行い、観光入込数の目標達成に寄与した。							
④評価方法	外部効果検証委員会を開催し、最終目標値の実現状況に関する評価・検討等を行うとともに、今後の課題を話し合った。												
⑤事後評価の公表方法	池田町役場のホームページに掲載												
⑥計画全体の総合評価	本計画は、国や県が整備を進める広域道路ネットワークと連携した地域道路ネットワーク（町道・林道）の一体的な整備により、地域周遊型の観光産業の確立による地域内外の交流を高めるとともに、基幹産業である農林業と観光産業との連携による6次産業化の推進に伴う地域経済の活性化を図り、町を訪れる交流人口の増加や地域産業の振興を目指すものであった。指標2の木材生産量については、搬出したが生産が新年度にずれ込んだものもあったことから概ね最終年度の目標値と近似するものであり、すべての目標を実現できたと考える。個別の路線についても、拡幅により安全性が高まったと言える。ただ、観光入込数や木材生産量が増えた結果、交通事故が増えるのは本末転倒であり、危険個所の解消など交通安全対策の視点を併せ持つ必要がある。												
⑦今後の方針等	岐阜県と池田町を結ぶ冠山峠道路の開通、池田町から福井市や越前市などにアクセスする国道417号・476号のバイパス整備および北陸新幹線の敦賀開業、中部縦貫自動車道の全線開通といった池田町を取りまく広域ネットワーク網が、この数年内で劇的に変化することにより人流、物流が増える契機になると考えられる。この契機を住環境の改善や林業・観光などの産業振興に活かすため、「道のオアシス」整備事業に反映させると同時に、R5年度から認定された新規計画において引き続き町道と林道を一体的に整備することにより、広域道路ネットワークと連動する地域道路ネットワークの充実を図り、「木望の森100年プロジェクト」や「池田町脱炭素実現ビジョン」と併せ、池田町が目指す安心・安全で持続可能なまちづくりに寄与するものとする。												